

AWL, Inc.

Company Introduction

AWL 株式会社 / 紹介資料

Lead the Future of RETAIL



Company Overview /

会社概要



人工知能
= AI + OWL
ふくら



代表取締役社長
北出 宗治



取締役 CTO
土田 安紘



上級技術顧問
川村 秀憲



技術顧問
Biplab Banerjee



会社名

AWL株式会社（北大発認定ベンチャー）

設立

2016年6月

株主

経営陣、サツドラHD、楽天キャピタル、CyberAgent 他

資本金

1億円（連結）

従業員数（連結）

86名（2022年11月1日時点）

所在地

東京本社：東京都千代田区丸の内3丁目3番1号 新東京ビル4階
 札幌本社：北海道札幌市東区北8条東4丁目1-20
 研究開発子会社：ベトナム・ハノイ（AWL Vietnam Co., Ltd）
 研究開発子会社：インド・バンガロール（AWL AI India）

We Promise /

DIVERSITY, EQUITY INCLUSION.

AWL の多様性、公平性、受容

年齢、国籍、性別、価値観等、
多様なバックグラウンドを持つ人材が活躍

Employees with a wide variety of backgrounds in terms of age, nationality, gender, values, etc. are playing active roles.

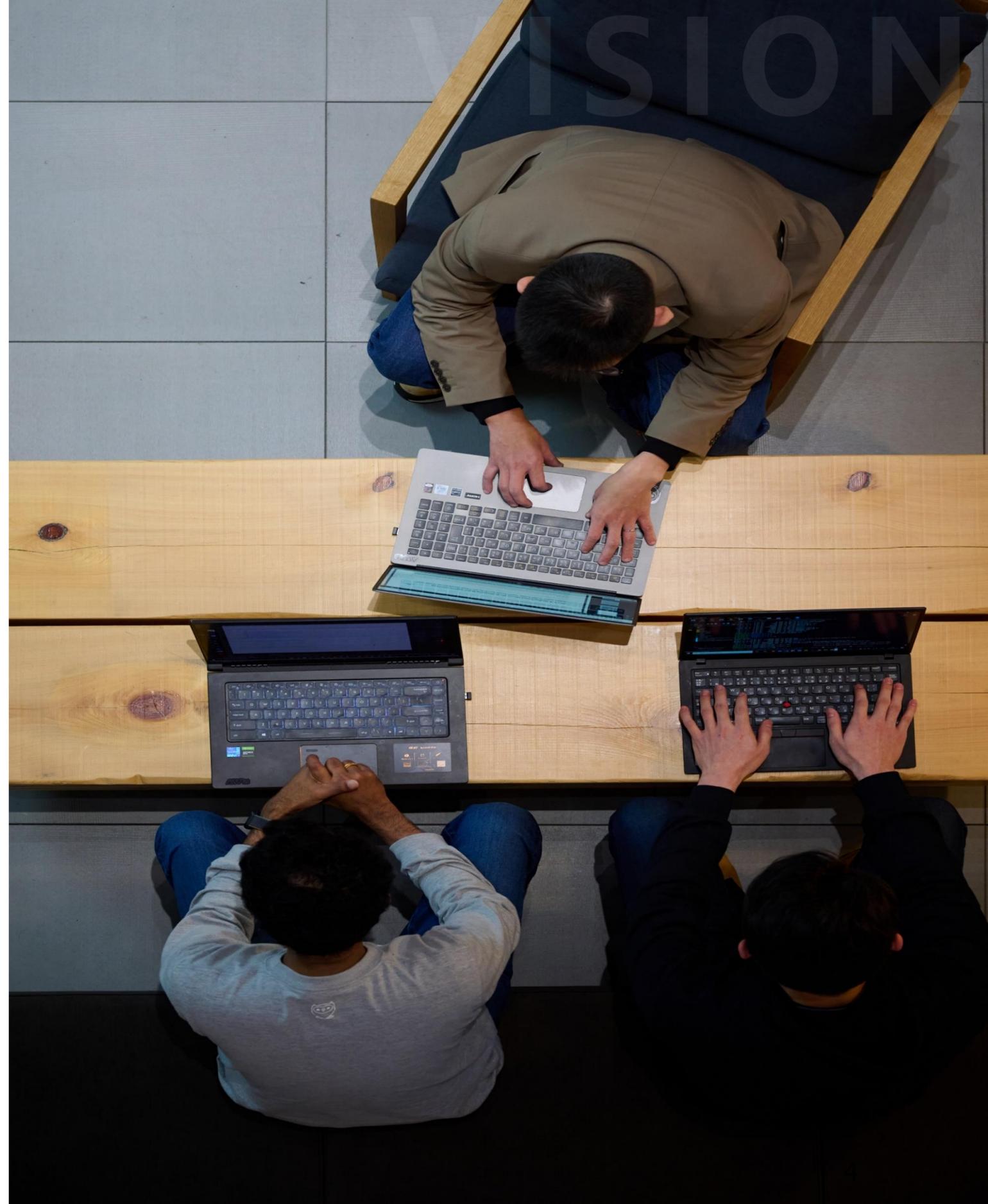
4 **Offices** **20+** **Nationalities**

JAPAN Tokyo & Sapporo

INDIA Bangalore

VIETNAM Hanoi

GLOBE + **AWL** = **GLOBAWL**



HISTORY/

会社沿革 ①

創業時より、小売業とそれらを取り巻く課題にこだわり、向き合う

AI TOKYO LAB & Co.

2016年6月

創業

2015年北出、北大・川村教授との出会いをきっかけに、AI社会実装のグローバル事業展開を目的とし、5名で設立

サツドラHDグループ
資本業務提携

2017年5月


**SATUDORA
HOLDINGS**

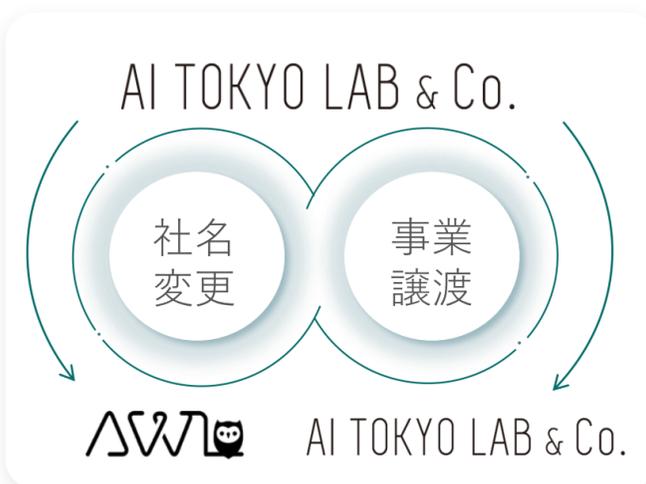
5.5 億円

分社化・受託事業売却

2019年3月

サツドラHDより独立

2019年9月



2020年2月

シリーズA資金調達

総額 **7.1** 億円

総額 **20** 億円

シリーズB資金調達

2021年6月

2022年6月

NOW

※ 現在企業価値 **95** 億円

2017年10月 AI HOKKAIDO LAB設立（北大ビジネスプリング）

2019年 4月 AWL Vietnam設立（ベトナム・ハノイ）

2022年 3月 AWL AI India設立（インド・ベンガルール）

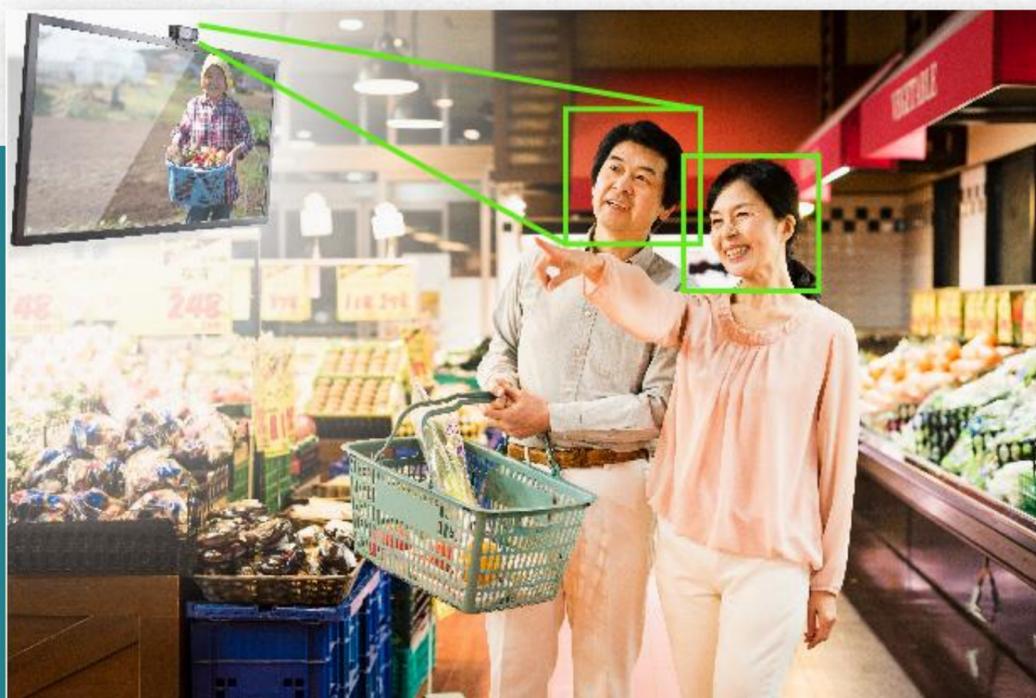
Our Solutions /

A W L の ソ リ ュ ー シ ョ ン

製品 / サービス

最先端エッジAI映像解析技術とIoT活用・導入の豊富な実績
小売業「現場」での安心感とコスト感

AIカメラアプリケーション



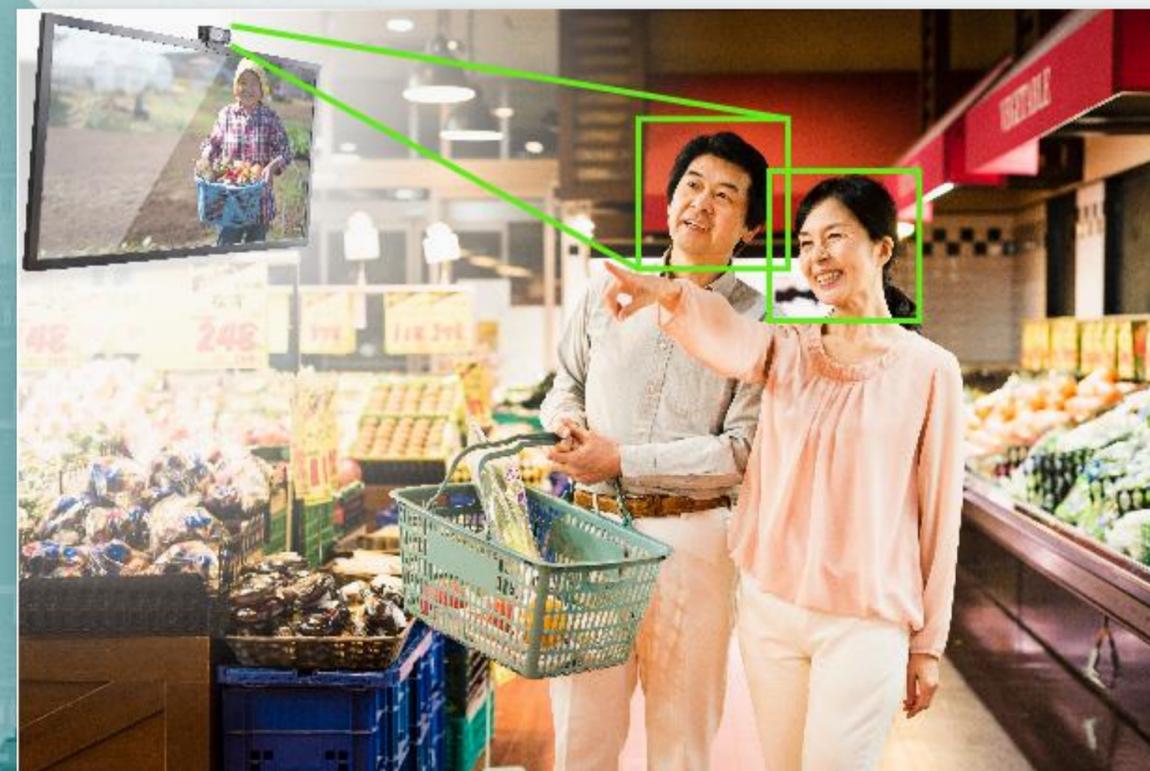
AWL  Lite

既設カメラをフル活用できる、
AI映像解析サービス



AWL  BOX

AWL Lite



デジタルサイネージ×AIカメラ ソリューション

デジタルサイネージでPRしながら、リアルタイムで高精度、プライバシーにも考慮した来客者・視聴者・視聴率効果分析ができる簡単取付・低価格のAIカメラ



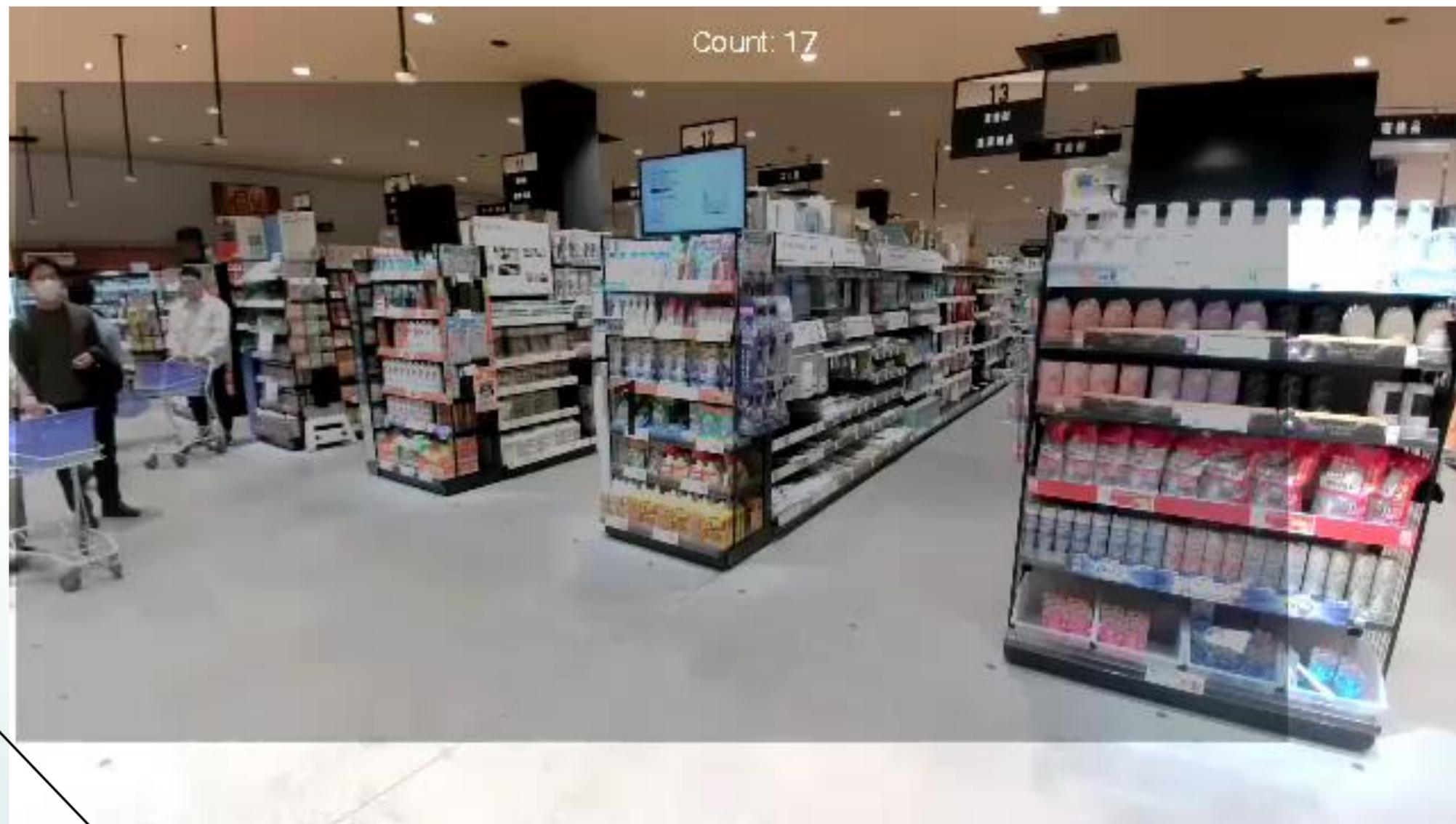
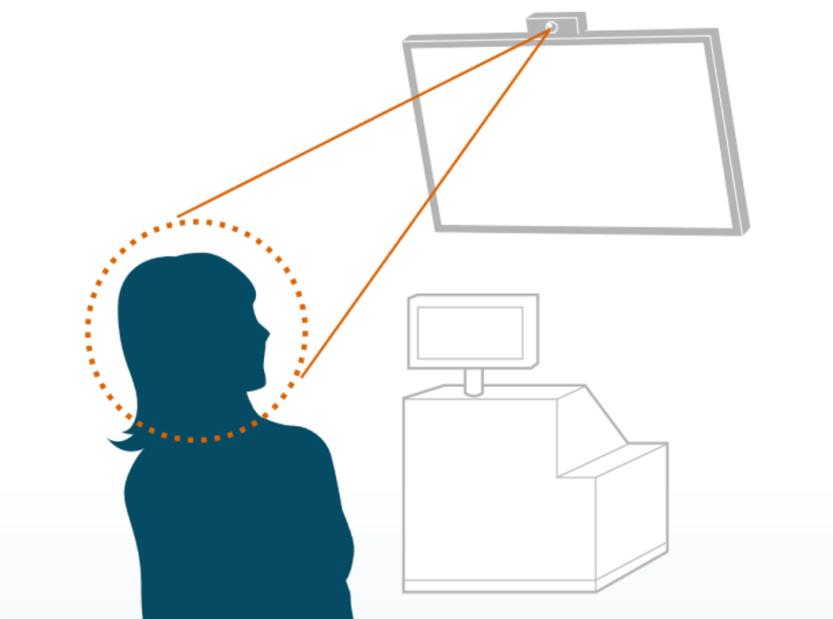
AWL Owl Lite

AWL Liteによる視聴分析デモ映像

DEMO VIDEO

製品紹介

レジ前の
デジタルサイネージで



ID

検出されたユーザーにIDが付与されます。

id:5

● 7.5s

マスク着用推定

検出されたユーザーがマスクを着用しているかどうかの判断

NO MASK

Roll: 4.7 Pitch: 6.7 Yaw: 3.8

F25

顔向き (3軸)

頭の向きを検出し、顔向きの推定方向を表示

視聴時間

IDが割り振られたユーザーがカメラの方向を向いている時間数を表示 (秒)

性別・年齢

検出されたユーザーの性別と年齢を推定

「リアル空間」を可視化し、PDCAサイクルを回し続ける

AI映像分析により、リアル空間をECサイトさながらにデータ化、可視化できる
従来、取得できなかった、広告視聴、立ち止まり、商品接触、購買状況等も得られる

インプレッション

ディスカバリー

コンバージョン

行動
解析

通過回数



視聴率（3秒以上など）



購入人数（POS連携）



属性
視聴
分析

分析結果



性別



年齢



視聴時間・視聴率



PDCAを回し、ECサイトさながらに**広告効果最大化**

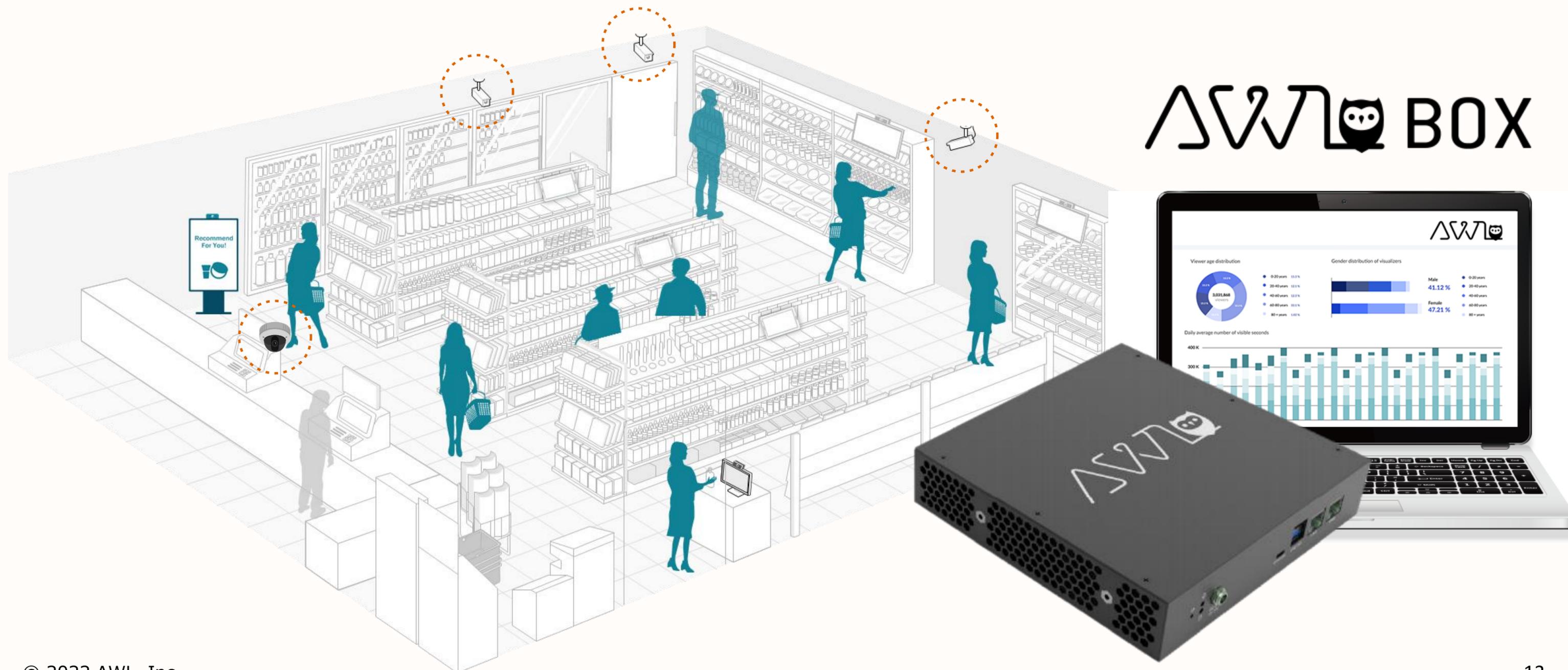
AWL BOX



高精度・多機能、低価格のAIカメラシステム

AWL BOX

既設のセキュリティカメラを活用し、
VMSに加え、高精度のAI映像分析を可能とするソリューション



AWL BOXの特長

※特許第6644231号

エッジAI技術で高精度・多機能、低価格を実現（個人情報にも配慮）

Point
1

低コスト

既設カメラの利用
(新規カメラでの利用可能)

Point
2

簡単設置

すぐ使える・
設置工事費用も削減

Point
3

分析結果の 汎用性

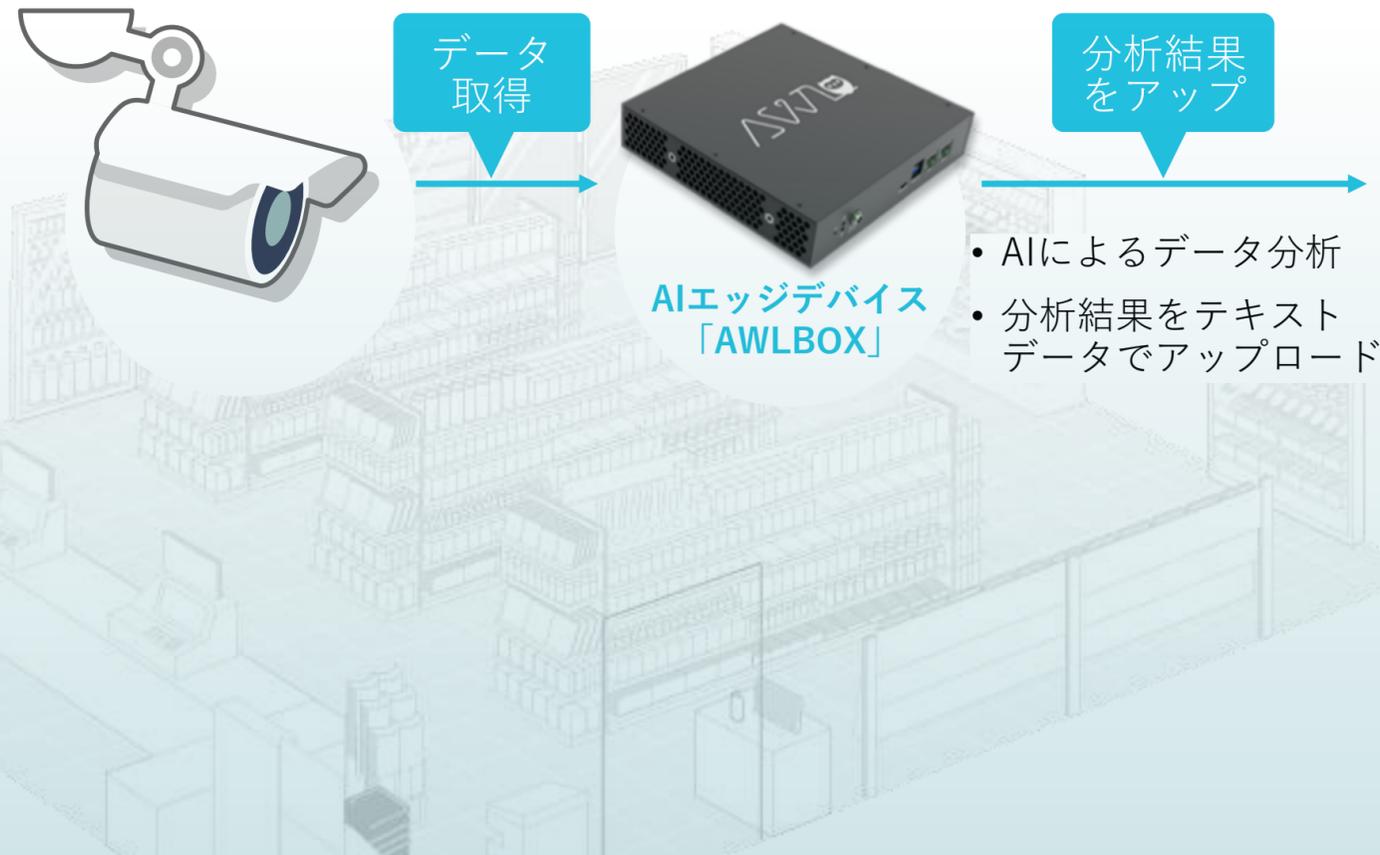
Point
4

高拡張性

パートナー企業様との
システム連携

Point
5

映像のクラウド 一元管理



AWLクラウド

- お客様属性(性別/年齢)
- 来店人数
- 店員/非店員分類
- 棚前の滞在時間 etc

マーケ
ティング

販売支援

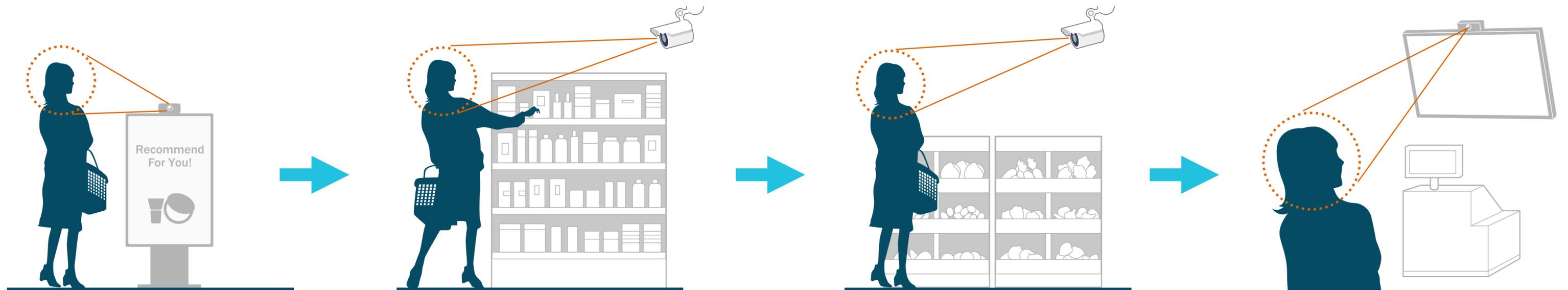
防犯

その他、様々な付加機能にも対応できる



AWL Lite × AWLBOX サイネージと防犯カメラによる相乗効果の最大化

サイネージ視聴分析と、店内IPカメラでのお客様行動分析を組み合わせることで、お客様のより細やかな顧客分析と、より付加価値の高い販促手法を確立できる

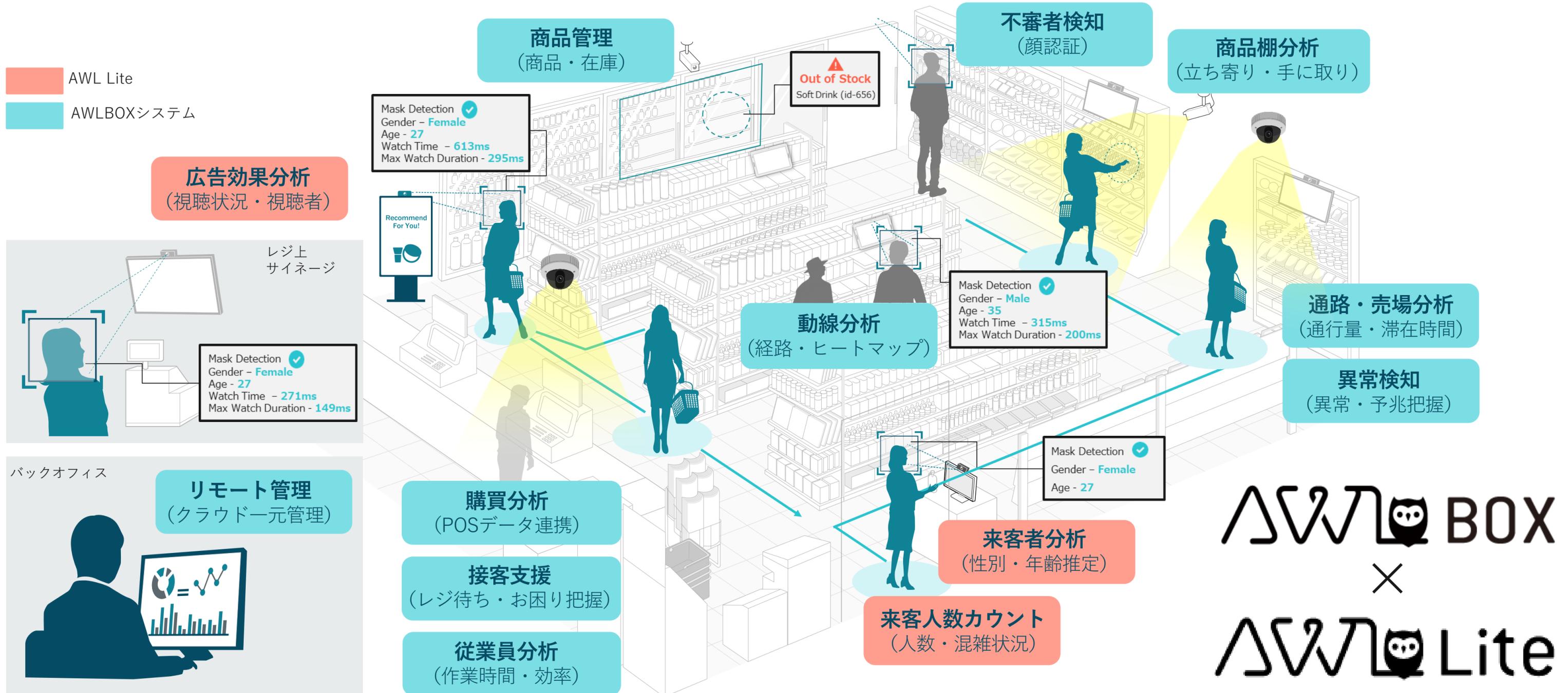


- ▶ 30代女性
- ▶ コスメコーナーサイネージを25秒視聴
- ▶ オススメ化粧品に接触
- ▶ 食品コーナーで15秒滞在
- ▶ オススメ化粧品を購入
- ▶ 店内滞在時間12分



リテールにおけるAWLの活用事例

「来店から立ち寄り、商品接触、購買、退店まで」リアル店舗内でのあらゆるシーンをデータ化し、ECさながらに可視化、分析可能なエッジAIカメラソリューション



製品紹介

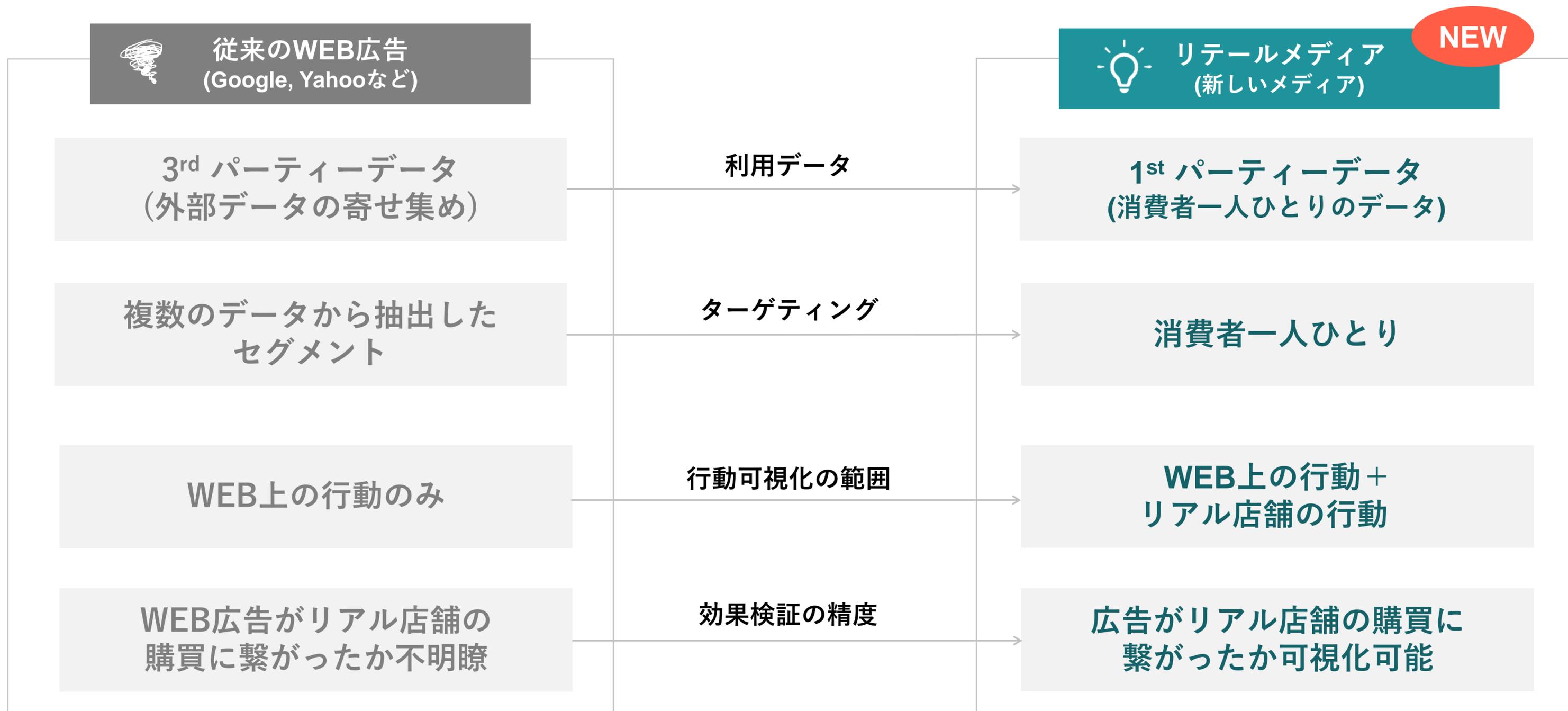
Our Challenge /

03

物価高と向き合う流通業における価値向上に向けて

新収益創出支援：リテールメディア

顧客接点を持っていることのリアル店舗の価値を可視（データ）化し、対象属性に沿った広告をターゲティング配信することで、新収益を創出する。



リテールメディアの価値

店舗のWEB/アプリでの広告を通じた購買動機の醸成から、店内サイネージを通じたリアル店舗における購買意欲を高める広告を組み合わせることで消費者への訴求力が向上



主な顧客層

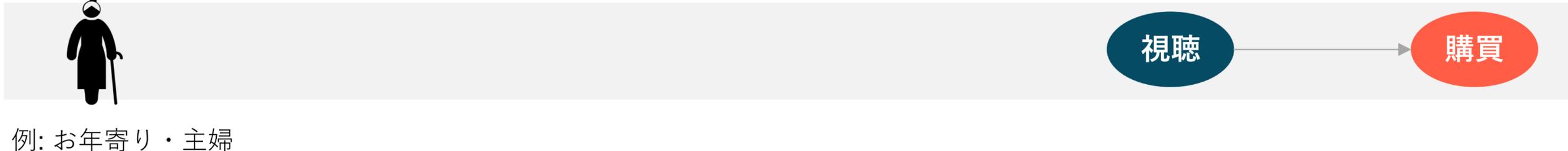
オフィス街の店舗



学校近くの店舗



地方/住宅街の店舗



今までリーチできなかったリアル接点を含めて効果が高い広告を展開可能

新収益支援+店舗内DX支援

リテールメディアを実現する上で必要な店舗内のデータ化を担うAIカメラを、業務効率化、生産性向上といった店舗内DXへも活用し、投資対効果を最大化

売上向上

リテールメディアでの新収益 Transaction to New Revenue

- リテールメディアにより、消費者が来店、商品接触するという行動＝トランザクションが新たな収益源に繋げる動きが広がっている。
- これまでリアル空間における広告効果測定を行うための費用が見合わなかったが、エッジAIカメラにより安価に必要なデータを収集可能に。



生産性向上

エッジAIカメラでの業務効率化 Digital Transformation in Store

- リテールメディアの価値を高めるためには店舗内のあらゆるシーンをデータ化することが重要。
- このデータを広告以外にも積極的に活用することで、欠品検知、商品棚分析、従業員の業務効率分析などの抜本的な生産性向上につながる。

デジタルサイネージ×AIカメラによる店舗GX支援

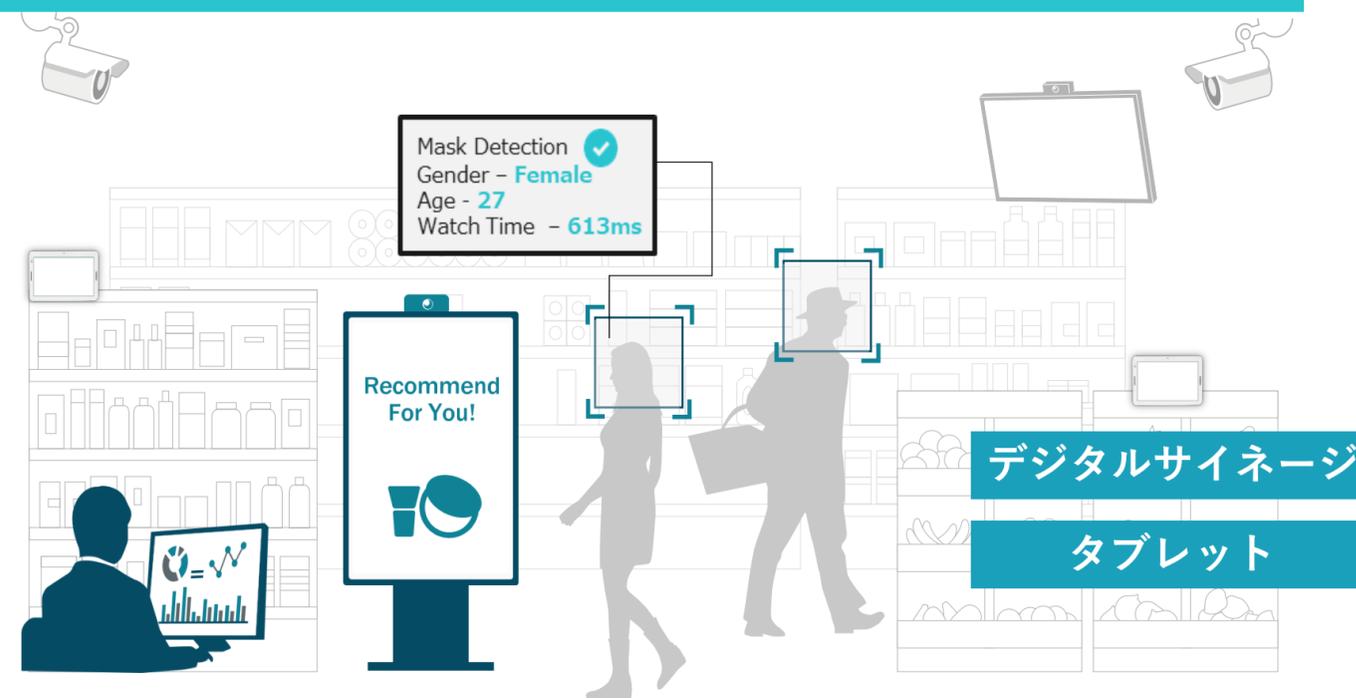
デジタルサイネージによる「環境負荷の軽減」、「人的工数の削減」、
AIカメラによる「効果測定」、「ターゲティング配信」を実現、SDGsにも貢献

従来の店頭販促 (POP)



- ✕ ターゲットごとの訴求不可
- ✕ 効果測定不可
- ✕ 印刷/維持管理のコスト高 ※修正不可
- ✕ 設置、貼替えの人的コスト高
- ✕ **自然環境への負荷 (印刷、配送、廃棄)**

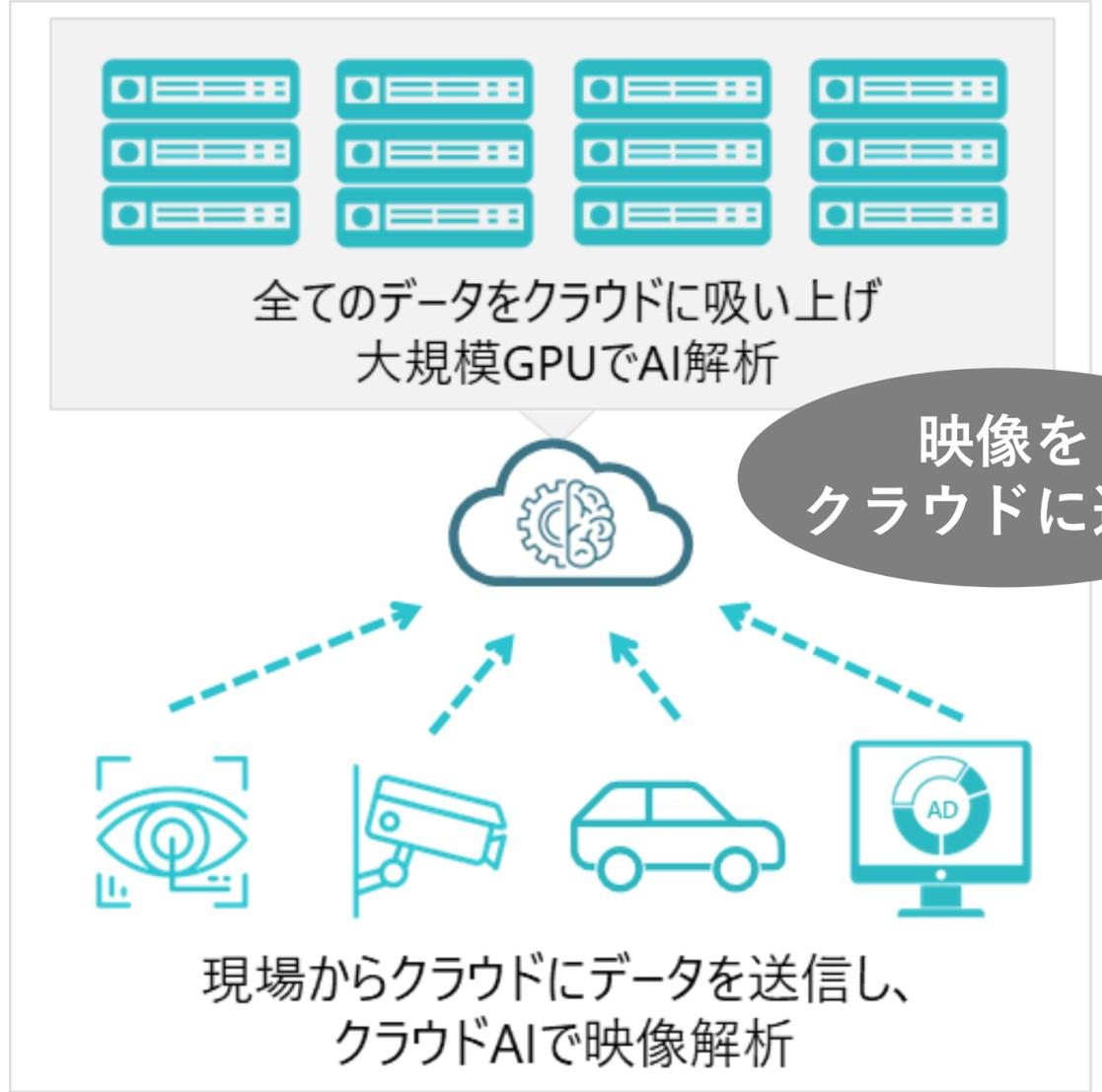
デジタルサイネージ+エッジ AI



- ✓ リアルタイムで**ターゲットに合わせた**訴求可能
- ✓ 詳細な**効果測定**が可能
- ✓ 低消費電力で、維持管理**コスト削減**
- ✓ 全拠点への**即時差替**が可能・人的コスト低
- ✓ キャンペーン毎の**印刷、配送、廃棄物なし**

参考：エッジAI技術のメリット

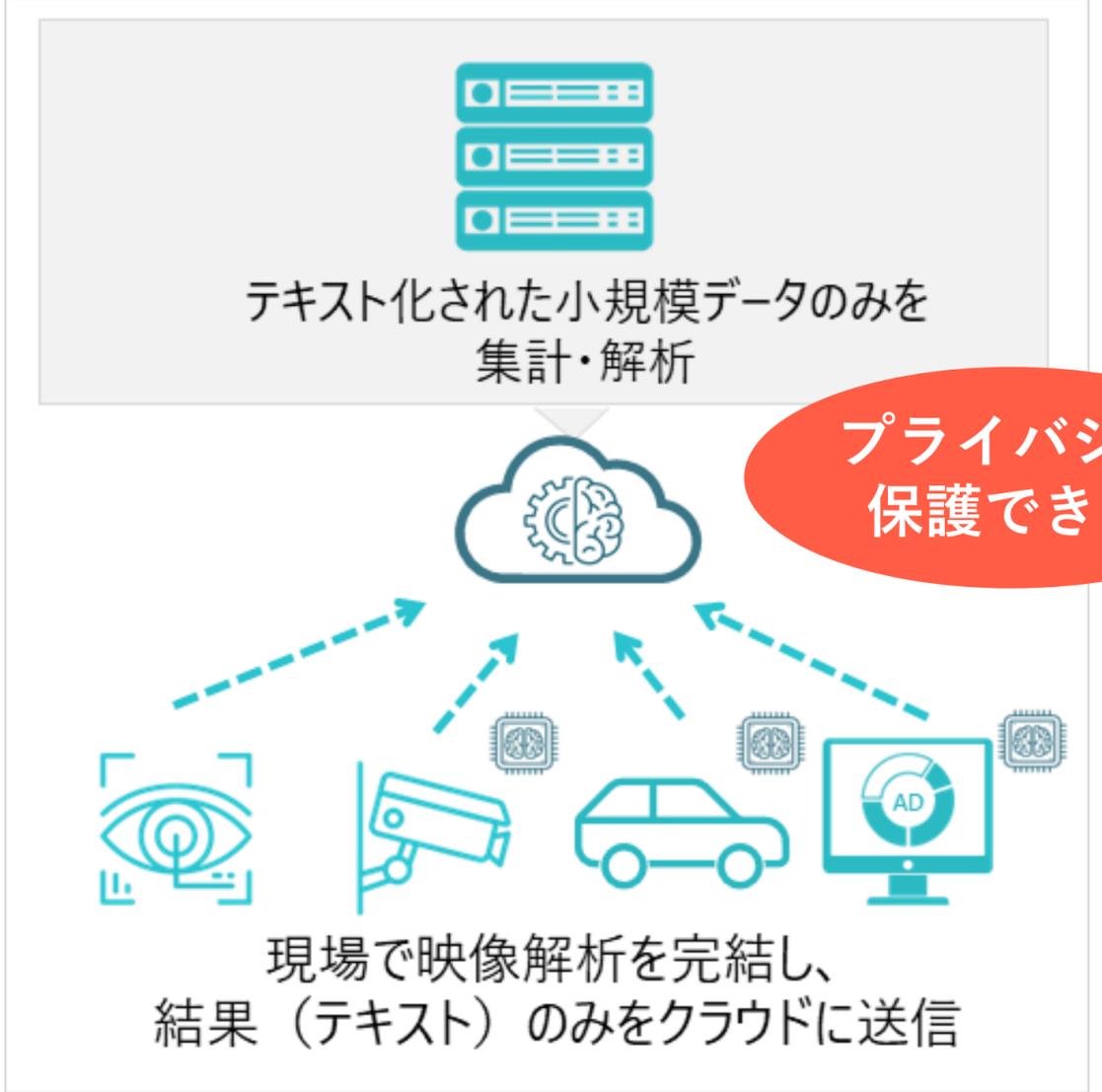
クラウドAI



- ✗ 高コスト 通信費・維持費
- ✗ 高ネットワーク負荷
- ✗ 高消費電力

エッジAIの
19.8倍

エッジAI



- ✓ 低コスト
- ✓ 高リアルタイム制
- ✓ 低消費電力

クラウドの
1/20

*2クラウドおよびエッジでの電力消費の比較、当社調べ。
クラウド 0.37TOPS/W (V100 ,112 TOPS ,300W) エッジ 7.33TOPS/W (Jetson Orin : 275TOPS, 15-60W 平均消費電力を37.5Wとした場合)

価値提供



THANK YOU